

平成30年度 第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日時 平成30年11月29日（木） 午後1時10分開始 3時終了
場所 弘前市役所本庁舎 市民防災館3階 会議室
出席者 葛西 徹 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長
小嶋 義憲 委員 北原かな子 委員
出 佳奈子 委員 武井 紀子 委員
瀧本 壽史 委員 鹿内 葵 委員（8名）
事務局 館長 加藤裕敏 館長補佐 佐藤弘道 運営係長 清藤留理子
主事兼学芸員 棟方隆仁 主事兼学芸員 北上真生（5名）

平成30年度第1回弘前市立博物館協議会

- 1 開会
 - 2 案件
 - (1) 平成29年度事業報告について
 - (2) 平成30年度事業計画並びに経過報告について
 - (3) 平成31年度事業計画について
 - (4) その他
 - 3 閉会
-

議長 平成30年度第1回弘前市立博物館協議会を開催いたします。
本日の出欠は、8名の委員が全員出席しておりますので会議は成立します。
では、案件の審議に入ります。（1）「平成29年度事業報告について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 【配付資料に基づき、事務局より説明】

議長 質問や意見がありましたら、お願いします。

小嶋委員 博物館の多言語化のことでお聞きします。大学の協力を得て行ったとのことですが、反応はどのようなものでしょうか。

事務局 外国人が博物館に多数訪れるようになりました。割合としてはアジア系、主に中国、台湾、韓国系などが増加しています。西欧の方もいらっしゃいます。英語圏の方ですと多少我々も対応できますが、受付には常設展の各コーナーのどのようなものを展示しているのか、英語、中国語、ハングル語のパンフレットを置いています。しかし、外国人の来館者が実際パンフレットを持っていかれるのは少ないと感じています。博物館内での置く場所の工夫も必要なのかもしれないので、外国人にも分かり易い場所を検討してみたいと思います。

また、多言語化について様々な業者が翻訳の売り込みにもきていますが、价格的に折り合わない状況です。外国人の割合も全体的には増加しておりますが、当博物館の入館者数ではまだ数%の割合ですので、予算をかけて多言語化にとり組むのかどうか状況を見守らせていただきたいと思います。

北原委員 実際に外国人の方は展示を観覧するのですか。

事務局 観覧はしておりますが、パンフレットを持っていく方は少ないと思います。

北原委員 外国の博物館に行くと、日本語のパンフレットがあるといいなと思うことはあります。中国語のパンフレットが多いのは現在の国際状況を反映していると感じます。あるとないとは違いますので、用意しておくのは良いと思います。

小嶋委員 高岡の森弘前藩歴史館では、刀などについて外国人の質問が多数あると聞いております。これから外国人も増えていきますので、徐々に対策を進めていただきたいと思います。

議長 ほかに平成29年度事業について質問、意見ありませんでしょうか。なければ案件(2)「平成30年度事業計画並びに経過報告について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 【配付資料に基づき、事務局より説明】

議長 平成30年度事業はまだ終了していませんが、ただいまの説明について、質問や意見がありましたらお願いします。

北原委員 歴史講座を私も今年度も講師を引き受けておりますが、昨年度講義をした経験では市民のレベルがかなり高いと感じました。

事務局 長谷川成一弘前大学名誉教授が、当館館長時代に始めたものですが、かかさず来ていただいている方もおられて、非常に歴史への関心の高い方も多数おられるようです。ただ市民講座ですので専門的な方もおられますし、素人の方もおられますし知識にバラツキがあるところが難しいものと考えております。市民の関心は高いと感じております。

小嶋委員 出前講座で学校を訪問しているようですが、これは学校の学年全部か学校の教科とか学校の行事とか、そのへんはどのようなものなのですか。

事務局 様々なケースがあります。多いのは小学校で5、6年生の児童が歴史の勉強を始めた頃に、自分達の学校の学区を絡めた歴史の話をしてほしいとの要望が多いです。こちらでも事前に学校に呼ばれる時は地域性を考えた話をする準備はしていきます。中学校の場合は、3年生というのがあまりなくて、1、2年生が多いです。中学生の場合は歴史講座に加え、キャリア教育の話として学芸員の仕事の話もしてほしいとの要望もあります。基本的に学校で話をする場合には先生と事前の打ち合わせを行います。

小嶋委員 現場にいるとPTAの集まりで話をしてほしいとの要望が時々あります。そうすると講師を誰にするかということになる訳ですが、そちらの関係の依頼はないものでしょうか。

事務局 今年もあります。三中学区の保護者を対象に行っております。約40人でしたがこの時は役員の方でした。

小嶋委員 附属中学校美術科というのがありますが、これはどういうことですか。

事務局 申込み者が附属中学校美術科で申し込んだもので、内容は3年生の美術の授業で行ったものであります。内容は生徒に卍札を作らせるということで、その前提として弘前の歴史を知ってもらうということでした。

議長 随分多岐にわたって行われていますよね。

瀧本委員 今の出前講座の中で、前回は話が出たのですが弘前卍学がはじまって、小中学校の授業で行っているのですけれど、資料を見ると多数の生徒が博物館に来ているように思えますが、小中学校の数としては非常に少ないですよ。まだ、市内の小中学校生が年に1回でも博物館に来るという体制にはなっていないですよ。そういう意味では多いようで少ないです。学芸員が少ないので大変なのは分かります。新人の学芸員も採用になったところなので、そここのところのやりくりを工夫することが大事だと思います。また学校に出向くことも大事ですが、博物館に来てもらうことも大事です。

小嶋委員 歴史の授業は、学校教育の中でどこの部分で行われているのですか。現状では郷土の歴史に触れる時間がないと思うのですが。為信の出生についても通り一遍の教育で新たな説など出て来ていると思うのですが、その点どう考えていますか。

事務局 そのような話が出た場合には、歴史には色々な説があり、歴史は面白いとお話しています。立場的には市史、県史に準じたお話しをしています。

北原委員 知り合いの娘さんが、博物館のねぶた展や文化センターの為信像を見て武将の名前を挙げると言ったら、為信とねぶた師の三浦吞龍さんの名前を挙げたと聞きました。そういう情報が小学校に入学する前の娘さんに情報としてはいつている事はいい事ではないかと思えます。

事務局 小学校の児童に「弘前を造った最初の殿様は誰」と聞くとみんな為信と言います。そこは浸透していると思います。小学6年生程度になれば全体の日本史、地元の歴史も徐々に勉強していきますから段階的に覚えていけばいいのかなと思います。小学校6年生の歴史の教科書には、江戸時代にできた城下町の項目に弘前市の城下町の地図が採用され、城下町の代表として弘前が載っているそうです。関心は高くはないのですが、ここらあたりから高めていければと思います。

議長 小学校あたりで歴史っ子クラブとか増えていけばいいと思います。ねぶたに関しては、いくつかの学校にねぶたがクラブ活動としてあります。先週弘前学院大学でシンポジウムがありまして、私のせがれがパネリストで出たのですが、市長のお話と小学校のクラブ活動として、ねぶたの製作と歴史的な背景とか学ばせることをやったのですが、そのように歴史っ子クラブとかできれば弘前卍学と連携できるのですが、いかがでしょうか。あるのでしょうか。

事務局 博物館に見学にくる学校では、和徳小学校と、城西小学校に歴史探検クラブとか歴史に興味ある子が入るクラブがあったように思います。そのクラブが博物館に来るということで受け付けたと思います。

議長 弘前卍学が、どの程度学校の子どもたちに浸透しているかどうか分かりませんが、不十分な感じを受けます。

武井委員 博物館の学芸員の方が学校に出向いてお話しすることは、学芸員の職業自体に興味を持っていただけるということで良いことだと思います、小学校のうちから歴史を学んでいただくことも非常に良いことだと思います。それを博物館に来ていただく事を次の段階として繋げられるようにしていく事が一番いいと思います。大学生でも1年とき青森の歴史と観光という授業を行っているのですが、ゼミに入った時にその年の

春に博物館に来てもらっているのですが、その時に初めてその時の授業の事が分かりましたという感想をもらうので、物を見るというのは百聞に一見にしかずでして、卍学も博物館に来て物を見るというふうに繋がられたら連携がうまくいくのではと思います。

事務局 弘前卍学ということで、私どもも小中学校長会においても博物館で卍学の展示を行っているとおアピールはしております。交通手段が無い場合は、バスの手配もいたしますと説明しております。しかし、資料に記載しているとおり博物館に来館する小中学校はまだまだ少ないのが現状です。毎回学校にはアピールしているのですが、校長や担任の先生に興味があれば来ないのかなあと考えております。先生方にこれからも博物館に来ていただけるようアピールは継続していくつもりです。

島内委員 「いのっち」のコンテストでもないですけど、小中学校で絵の描いたものを飾るとかすれば、自分の描いたものが博物館に展示されているということで博物館に来るきっかけにはなると思います。

事務局 今年、青森の三内丸山を含めた世界遺産の登録運動のために当博物館の「いのっち」折り紙を県内の博物館で来館者に折ってもらい、まとめたものを三内丸山の時遊館に展示するというを行いました。やっぱり自分で折ったものが展示されているとなると来館してみようという気になるのかなと思います。

島内委員 親子で来館してみようという気持ちになると思います。

事務局 いいご提案だと思います。「いのっち」の塗り絵とか、夏休みの課題として出すとかして、その中からいい作品を展示するのも一つの方法だと思います。

島内委員 学校毎に日時を分けて展示するなどすれば、その時の対象の学校が来館するなどの方法もあると思います。きっかけにはなると思います。

議長 次に、(3)「平成31年度事業計画について」事務局の説明を求めます。事務局の説明をお願いします。

事務局 【配付資料に基づき、事務局より説明】

議長 今後の課題を含めて「平成31年度事業計画について」説明していただきました。ただいまの説明について、質問や意見がありましたら、お願いします。

小嶋委員 文化財行政の所管が、教育委員会から市長部局への移管も可能となるのですか。

事務局 法により文化財行政や博物館行政は教育委員会が所管すると定められていたのですが、条例により市長部局の所管にできることになるというものです。これは文化財保護行政が観光部門や商工部門におかれ、歴史資料を観光行政により活用しようということもできるということです。

小嶋委員 時代の流れでそういう方向になってきているのですね。

北原委員 外国人を弘前観光に連れてくると弘前公園は褒めるのですが、公園の中の施設も実はきれいなんですよ。博物館の存在も実に感じがいいんです。そこで博物館にもカフェとかあったら相当入館すると思うのですがいかがでしょうか。

事務局 大変申し訳ないんですけど、博物館の中は飲食禁止とさせていただいております。資料の保存、展示のためには必要なことと考えております。また、文化庁で出している資料の公開基準では、博物館内にカフェを設けるためには、入口及び建物自体が本

館とは隔離されている状況を造れることが原則です。当市の博物館は、構造的に飲食部門と展示部門を分離することができません。また、中庭に別棟で建物を建築すれば可能かもしれませんが、弘前公園は史跡ですので許可はおりないと思います。確かに雰囲気はいいので飲食コーナーがあればいいと思うことはあります。また当博物館は前川建築ということで、意匠を変えるとか構造を変えることについては、制限があり簡単にはいきません。

瀧本委員 いま私は弘前城跡整備指導委員会の委員になっておりますが、そこでやっている新しく建てられた弘前城情報館なのですが、博物館のすぐそばにありながら博物館との関わりが全くないんですよ。情報館は博物館の資料を結構使っているんです。博物館に行くと原物を見られるとか連携は考えられないのでしょうか。中身を見ると市立博物館は全然出てきません。もっと協調して何かできるのでと思います。情報館の方ではこれから直していくとのことでした。うまく活用していけば良い流れが作れるのではと思います。

事務局 博物館としては情報館と連携して、お城を見てから情報館を見て、博物館に来てほしいとは思っています。

現状の博物館の位置は、追手門から入って市民会館の方へ行くか、植物園を曲り杉の大橋を渡って本丸へ行くというのが一般的で、博物館に入るというのがなかなか分かりづらく、入りづらいものとなっております。公園緑地課の方をお願いして杉の大橋から博物館に入る誘導路を舗装してもらいたいと希望しております。

小嶋委員 杉の大橋から博物館に入るところに、博物館の大きな看板は立てられないものでしょうか。

事務局 看板はあるのですが、史跡なので別な看板を立てるのも許可がいきます。

現状のものと違うものを立てる場合には、国までの許可がいきます。そのため周知のためにのぼり旗を立てることを検討しています。杉の大橋からのアプローチについて課題となっており、昨年度建物の壁面に「弘前市立博物館」の名称を入れました。それについても前川建築が景観重要建造物に指定されているので意匠の変更に限界があります。

議長 いろいろな提案の中で、博物館も頑張っているんですね。

事務局 平成29年4月20日に博物館開館40周年として無料開館したのですが、その日1日で約800人の方が入館したので、開館記念日を設け無料開放などイベントを考えたかどうか検討しています。桜まつり前ですので宣伝効果もあるのではないかと思います。

瀧本委員 課題のところですが、どうしても観覧者数での捉え方が評価の基準となっております。利用者数を増やしていくとのことですが、利用者数は確実に増えていると思います。利用者数の集計も出した方が良いのではと思います。県の郷土館もそのように捉えて利用者数が増えていると説明しています。利用者数の統計は出していったほうが良いと思います。

事務局 統計として捉えておりますので、次回からの資料には記載するようにします。

瀧本委員 小中学校の利用者数が極めて低いわけです。統計的に小中学校の利用率が低いと

ということが分かれば、小中学生の利用率を高くすればいいということが分かる訳で、それではどのようにすれば良いのかいう方法を考えると、そのひとつとしてバスの利用をするとかの方策が出てくると思います。

議長 最後の案件ですが、案件（４）「その他について」事務局のほうで何かありますか。

議長 開館５０周年に向けて何か計画はありますか。

事務局 記念誌を作りたいという意向はあります。２０周年の記念誌は発行しているのですが、３０、４０年の記念誌は発行していないので５０年は作りたいと考えております。

議長 そろそろ準備も進めていく方向で考えてもらいたいと思います。

事務局 それから、記念誌もそうですけれども記念事業も考えていかなければならないと思います。記念事業については長期的に考えていかなければならないと思っています。

議長 予算とかどうなりますか。

事務局 それは特別枠で願するしかありません。

議長 記念誌は出していただきたいと思います。

小嶋委員 記念事業といえば、特別展も開催しなければならぬですね。

事務局 当然計画はしなければならぬと考えております。津軽家に関連したお宝を展示できればと考えております。

瀧本委員 最後に、学芸員が忙し過ぎるという話が昨年もあったのですが、年間の企画展が４回、特別展が１回のペースで行われておりますよね。これは毎年同じ回数を行っていますが、予算の関係でそうなるのですか。

事務局 展覧会の数を減らすと予算が減るという事情もあります。また、ねぶた展のように季節ものの展示をする場合には、年４回位の企画展がないと続かないという事情もあります。現状、学芸員が４人となりましたので、年４回であればいいのかとも考えるところもあります。

瀧本委員 常設展に来たら休みだったということもあります。

北原委員 学生には常設展を見せたいと思っています。

瀧本委員 学芸員の負担を少なくするため、ねぶた展は中身を多少変えてやるとかして、残りの３本の中でもう１本をパターン化したらどうかと思います。企画展と次の企画展の間が２週間程度しかないので相当タイトだと思います。そのところ余裕ができれば学芸員の研修や勉強の時間に充てられるのではないかと考えます。

事務局 貴重なご意見ありがとうございます。

出委員 先程小中学生の利用が少ないとありましたが、小中学校への宣伝はどのようにしているのでしょうか。

事務局 生徒ひとりひとりにチラシが配られるのは、基本的には特別展の時だけです。企画展には学校にはポスターを配布しております。

出委員 子供を持つ親としては、学校から随分たくさんチラシが配られてきます。博物館系のものは配られてこない気がしています。ハラッパの方で生徒ひとりひとりにチラシを配布したら参加者が増えたと聞いています。ひとりひとりに配られないと親が見ないので分からない。そういうこともあって利用者が増えないのではと思います。

議長 予算的にはどうなんですか。

事務局 チラシの種類にもよりますが、白黒であれば安くカラーの場合だと高くなります。

小嶋委員 ねぷた展をやるのは良いのですが、ねぷた絵師の石沢龍峽、長谷川達温、竹森節堂などについて、ねぷた絵だけではなく絵師や日本画家としての作品を紹介するべきではないかと考えています。

議長 石沢龍峽の絵などは天皇に献上したりしているほど素晴らしいものがあります。ねぷた絵のまんがチックな絵と全く違うもので、節堂さんの日本画にしても、達温さんも屏絵とかも密かに描いているんですよ。そういうのってあまり知らないと思うのです。あるいは仏画の絵師として側面も持っています。本人たちが一番喜ぶと思います。

事務局 そういう画家として絵師としての紹介は計画をしています。ねぷた展の中で絵師の特集ができればと思っています。

議長 ねぷたの展示で地域とコミュニティとの関係を展示するやり方もあると思います。たとえば和徳なら和徳、茂森なら茂森でその町の成り立ちと関連してくるねぷたの紹介をするとか、そういったものも丕学に関連して紹介する方法もあるのではと思います。

議長 本日は長時間活発なご意見ありがとうございました。

これで平成30年度第1回弘前市立博物館協議会を終了します。

事務局 長時間に渡ってありがとうございました。なお、委員名簿と本日の会議の会議録につきましては、市ホームページに掲載されますので、ご承知置きください。
